

施策 No.	政策名	みんなで築く自治のまちづくり	主管課	財政課	主管課長名	青木 康博
6-5	施策名	健全な財政運営の推進	関係課	企画課、総務課、税務課、収税課、会計課、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象	対象指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
市の財政	①一般会計歳入決算額(見込値は予算額)	百万	見込値	17,225	19,091	18,786	17,886	16,550
			実績値	23,657				
	②一般会計歳出決算額(見込値は予算額)	百万	見込値	17,390	19,300	19,080	18,340	17,190
			実績値	21,728				
			見込値					
			実績値					
施策の意図	成果指標名	単位	区分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
財政運営が安定し、財政状況が市民に分かりやすく伝えられている。	①市民一人あたりの貯金の額(基金残高÷人口)	千円	目標値	211.1	207.6	200.6	179.4	146.0
			実績値	272.3				
	②市民一人あたりの借入金残高(市債残高÷人口)	千円	目標値	576.1	575.2	620.0	649.8	639.0
			実績値	562.6				
	③経常収支比率(前年度決算分)(R4から新規)	%	目標値	86.0	86.0	86.0	86.0	86.0
			実績値	87.7				
	④市税の収納率(現年度)	%	目標値	98.5	98.5	98.6	98.6	98.7
			実績値	98.6				
	⑤ふるさと応援寄附金の額	千円	目標値	40,000	50,000	60,000	80,000	100,000
			実績値	143,043				
成果指標設定の考え方	健全な財政運営ができるかどうかは、①市民一人当たりの貯金額、②市民一人当たりの借入金残高、③経常収支比率、④市税の徴収率(現年度)、⑤ふるさと応援寄附金の額で見る。							
成果指標の把握方法と算定式等	①市民一人あたりの貯金の額(基金残高÷人口)、②市民一人あたりの借入金残高(市債残高÷人口)、③経常収支比率、④市税の収納率(現年度)は、決算カードより求める。⑤ふるさと応援寄附金の額は決算書より求める。							

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・市民一人当たりの貯金の額は、令和3年度の241千円から令和4年度は272.3千円に増加した。現在予定されている複合施設や新庁舎などの大規模建設事業に対応するため、公共施設整備基金に10億円超の積み立てを行った。</p> <p>・市民一人当たりの借入金残高は、令和3年度521千円から令和4年度562.6千円と増加した。大規模事業の実施に伴う市債の発行額が増加したためである。</p> <p>・経常収支比率は、財政の柔軟性を示すもので数値が低いほど良いとされている財政指標である。令和3年度の80.9から令和4年度は87.7となり財政構造の硬直化が高まった。下水道事業会計補助金が増加したためであり、また、臨時財政対策債の発行額が減少したためである。</p> <p>・市税の収納率(現年度)は、令和3年度の98.5%から令和4年度は98.6%に向上した。</p> <p>・ふるさと応援寄附金の額は、令和3年度32,533千円から令和4年度143,043千円に増加した。要因としては、返礼品及び掲載サイトを増やし、地域産品のPRを積極的に行ったことが要因と考えられる。</p> <p>市債の増加は、合併特例債事業の進捗によりやむを得ないが、収納率の向上、ふるさと応援寄附金の額の大幅な上昇、普通交付税の増加などによる基金への増資など財政運営上の歳入確保という面では一定の成果が見られたため「どちらかといえば向上」と判断した。</p>		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	<p>・市民一人当たりの貯金の額は、目標値を91千円上回ることができた。</p> <p>・市民一人当たりの借入金残高は、目標値を13.5千円下回ることができた。</p> <p>・経常収支比率は、目標値の86.0%を17.7ポイント上回ってしまった。</p> <p>・市税の収納率は、0.1ポイント上回った。</p> <p>・ふるさと応援寄附金の額は、43,043千円上回った。</p>		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
<p>施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設整備基金に10億円を積み増しをすることにより、計画的な財政運営の推進に大きく貢献した。 ・返礼品や掲載サイトを増やし、地域産品のPRを積極的に行ったことにより、寄附額が令和3年度寄附額の約4倍以上に増加したふるさと応援寄附金事業が、成果向上に大きく貢献した。 ・企業版ふるさと納税の昨年度実績は、21件12,800千円の寄附実績があり令和3年度より15件5,200千円増加し、増収に大きく貢献した。 	<p>今後も大きなプロジェクトが続いていく中で、健全な財政運営を行うためには、財政計画を作成しながら、予算編成を行う必要がある。</p> <p>市税の収納率については、今後も引き続き、その向上に向けた事業を実施していく。</p> <p>ふるさと応援寄附金額を増やすため、返礼品の開発や地域産品PRの強化をしていく必要がある。</p>